



新しい時代に向けて「モデル指定

生涯学習のすすめ

「人生八十年時代を迎えて、村民一人ひとりが心身ともにつらつと充実した日常生活を楽しみながら、二十一世紀へ向けて明るい村づくりをしよう」と、昭和六十年を「生涯教育元年」に位置づけ、生涯学習に積極的に取り組んできたことが評価されて、岩室村はこの七月、国から県内で唯一（全国でも三か所）の臨時教育審議会答申による「生涯を通じた学習体制を整備するまちづくり」のモデル地域に指定されました。そして、これからの長期プランの具体化を進めています。そこで今号からシリーズで、みなさんと一緒に「生涯教育・生涯学習」を考えてみたいと思います。

—生涯教育アンケート調査から—
 ■ことし8月、村民のみなさん 100人に生涯教育などについてアンケート調査を行いました。その結果の一部をご紹介します。あなたと比べていかがでしょうか。次回は、調査結果の分析からお話してみたいと思います。

元気のある村づくり全体が生涯学習

岩室村はいま、「モノ」から「ココロ」への村づくりを目指して生涯教育、生涯学習を積極的に進めはじめています。

とかく、「教育」とか「学習」というと、堅苦しい肩のこるものと受けとめられたり、なにもこれまでやっていないものなので、いままさら強調しな

くても……といった見方もあると思います。

しかし、そんな状況の中で、なぜ岩室村がほかに先がけて生涯学習の推進に力を入れるのかといえば、「人や地域を元気にする」ということにつきまです。人生八十年代や高齢化社会といった言葉も、すっかり色あせてしまっ

感じますが、果たしてどれだけのみなさんが、そのことを真剣に「自分のこと」として受けとめ考えているでしょうか。

一例をあげると、岩室村の高齢化率はどのくらいだと思えますか。約十六%です。六人に一人はお年寄りというまさに高齢化社会の最先端、といっても過言ではないでしょう。

このように小さな変化ではあっても、どんどん社会は変わってきているのに、わたしたちの生活自体が「現状延長型」

ではとても潤いのある豊かな人生なんて望めません。

そこで、岩室村の持つ特長——そうです。この恵まれた自然環境をフルに生かして、みなさん一人ひとりが何かを考え学び、それを地域づくりに反映させながら、お互いが文化と人のふれあいといった心の温もりを分かちあえるような村をつくっていかう——というのが「生涯学習」を進めている大きな意味です。

未来をデザインする三つの方向性

村では、この生涯学習で目指す方向（理想）として次の三つのビジョンを描いています。

ビジョン

その一つは、地域文化を大切にしながら、生涯を通して自己の形成や生活の向上、そして地域づくりにつながる学習活動の実践ができる条件整備をして、生活を通して創造する喜びを味わえる——文化的水準の高い村づくりです。



お母さんたちの勉強会は、家庭で学習を進める大きなポイントですね。（公民館の婦人学級から）

供する一方、生涯を通して健康な体づくりができる環境を創出して、たくましい体と心を育むことのできる——健康水準の高い村づくりです。

ビジョン

三つめは、福祉活動への積極的な参加をすすめる、一人ひとりが真の福祉とは何かを考え、福祉とのかかわりが多くもてるような互恵の精神に支えられた健やかな生活ができる——福祉水準の高い村づくりです。



お年寄りの持つ知恵と技は生涯学習に欠かせない貴重な財産。（公民館の高齢者学級から）

〈学習の主体〉はみなさんです

しかし、これらのことは、あくまでも〈学習の主体〉がみなさん一人ひと

次回はこのアンケート調査の結果を中心にお話ししたいと思います。

